

学びの基盤となる【読書】



【読書】キャラクター「おっぽん」

札幌市立栄町中学校

読書活動の取組

読書センターとしての機能

◎ウィンターブックフェア 冬休み前の長期貸出期間中に開催。図書局員手作りのしおりやブックカバーなどが当たるくじの他、局員のおすすめ本を袋に詰め、中身は借りて開けてみてのお楽しみというシークレットブックなどを企画しました。



◎学級文庫 札幌市の寄託図書を利用して、学級文庫として各クラスに毎月 10 冊ずつ本を貸し出しています。気軽に読める絵本や学習マンガなども含め、なるべくいろいろな分野の本を選び、毎月入れ替えて、朝読書や短い休み時間に多くの生徒が利用しやすいよう工夫しています。

学習センターとしての機能

◎参考図書の使い方を学ぶ

1 年国語「情報収集の達人になろう」の授業で、図書館で実際に参考図書を使って調べ、調べたことの書き方などについて学びました。2 人 1 組でくじを引いて、出た“お題”について図書館内の参考図書（百科事典、年鑑など）を使って調べました。

[お題](例)

- ・インターネットはいつどこで何のために作られたのか？
- ・かき氷は日本でいつごろから食べられているのか？
- ・日本にはなぜ四季があるのか？
- ・ゴキブリはいつごろから地球に住んでいるのか？
- ・サザエさんは何歳？ …など

普段頼りがちな Web 検索ばかりでなく、本を使っての情報の調べ方や調べたことの書き方などについて、ゲーム感覚で楽しく学習しました。

[授業後の生徒の感想より]

「(本で)調べると、調べたいことだけでなく知らないことも載っていた」「何か調べると別の問題が出てきて、それがずっと続くので、いつか調べられないところまで調べてみたい」…など

情報センターとしての機能

◎「調べる学習支援トランクキット」の展示

生きものや科学への探求心を育む、学習支援トランクキットを札幌市中央図書館からお借りして図書館内に展示。1 学期は「サケ」、2 学期は「ヒグマ」に関するさまざまな資料や標本などを展示。全国で熊のニュースが相次ぐ中、ヒグマの本物の毛皮や頭骨などに生徒も興味津々の様子でした。



ヒグマの毛皮や頭骨など